

令和4年度 一般採用試験

国語試験問題

(人文・社会科学専攻)

(注意)

- 解答用紙の注意事項を確認のうえ、例にならって氏名及び受験番号を解答用紙に必ず記入及びマークすること。

例 【氏名】 防大 琢 【受験番号】 神奈川人W1234 の場合

*氏名及び受験番号の記入について

	氏 名	名
フリガナ	ボウダイ	ナギサ
漢字	防大	渚

	志願地本名	専攻区分	番号
受験番号	神奈川	人	W1234

*受験番号等のマークについて (女子受験者は、番号のWはマークしない。)

志願地本名	札幌: 01	福島: 10	
	函館: 02	茨城: 11	
	旭川: 03	栃木: 12	
	帯広: 04	群馬: 13	
	青森: 05	埼玉: 14	
	岩手: 06	千葉: 15	
	宮城: 07	東京: 16	
	秋田: 08	神奈川: 17	
	山形: 09	新潟: 18	

専攻区分				番号			
人社				0 0 0 0			
性別				1 1 1 1			
男				2 2 2 2			
女				3 3 3 3			
				4 4 4 4			
				5 5 5 5			
				6 6 6 6			
				7 7 7 7			
				8 8 8 8			
				9 9 9 9			

- 試験時間中は、すべて試験係官の指示に従うこと。

- 解答方法は、択一式であり、設問ごとの指示に従い、解答用紙の解答欄にマークすること。

例えば、①と表示のある問題に対して(3)と解答する場合は、次の例のように①の解答欄の③にマークすること。

例

解答欄					
①	1	2	3	4	5

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(茂木健一郎氏の『思考の補助線』による)

*(注) オイラーの等式——一八世紀の数学者レオンハルト・オイラーの業績に基づく、複素指數函数と二

角関数の間に成り立つ恒等式。

トランジスター——多くの精密機器の電子回路で利用されてきた半導体素子。

ニュートン力学——アイザック・ニュートンによって構築された力学理論。古典的な物理学の体系

を完成させたものと評価されている。

超ひも理論——超弦理論。物質の基本単位としての粒子を、点ではなく弦とその振動とする。量子

論以降に生まれた新たな物理学上の仮説。

ヴィジョン——ここでは幻想、幻影の意味。

認知科学——情報処理の観点から知性の構造を解析しようとする越境的な科学ジャンル。

チューーリング・マシーン——アラン・チューーリングがその計算可能性の理論で示した仮想機械。コ

ンピュータの原型を生み出した発明として評価されている。

サイバネティックス——人工頭脳学。通信工学と生理学、システム工学等を融合した学問形態。

非侵襲的方法——直接身体組織を傷付けずに検査や治療を可能にする医学的処置の方法。

1 文中の空欄 A B C にそれぞれ入る語の組

み合わせとして、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) A 隔離 B 形而上学 C 豊饒
(2) A 拘禁 B 自律活動 C 閑達
(3) A 保存 B 反物理学 C 潤沢
(4) A 幽閉 B 物質主義 C 神秘
(5) A 放置 B 先天生得 C 深遠

2

文中の傍線部（数学の女神の微笑み）の比喩が意味する内容（全て三つずつ）の組み合わせとして、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 数と数の間の神祕的な関係 自然言語による奇跡 この世界に存

在しないものへの仮想

- (2) 厳密な数学的秩序 他の解釈を許さない厳密性 思考の自然化による自然言語の問題化

数学的形式にもとづく自然科学の成果 「地上的な」能力による「天

上の」思考の制御 脳内の物質的過程と人間の思考との非連続性

- (4) 物質世界の厳密な因果的進行と連続性 心脳問題への論理的帰着 世界でその中心を統べているもの

- (5) 思考の数理的基礎の解明 抽象的思考を支える精緻な自然法則 統計的に厳密に数字で表現できることの汎用性

本文中の「曖昧」に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 「曖昧」と「厳密性」の間には単純化できない問題が横たわっており、その対立構造を人文学と自然科学の対立に当てはめることは、必ずしも適切ではない。
- (2) 人間の思考が「曖昧」を許容しているという問題は脳の因果的機能と矛盾する難問であり、それは自然言語の不安定で現実から遊離した仮想性を生み出している。
- (3) 因果的観点から見ると「曖昧」は存在しないのだが、自然言語の中にそれがあると感じてしまう感覚をめぐる問題の根源は、脳と心の関係構造の内部にある。
- (4) 自然言語が、因果的な法則に支配されたこの現実世界の中に「曖昧」という要素を存在可能にしていることは、人間存在の本質を考える上で示唆的な事実である。
- (5) 自然科学の諸成果が確立される以前の「ブラックボックス」の内部においては、「曖昧」は人間の思考の普遍的的前提であり、それは否定的なものではなかつた。

本文の内容に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なもの

を次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 自然言語という非人工的な文化領域に依拠して成立している人文諸学は、その論理的整合性や厳密性の欠如という点で自然科学に劣るが、文学などの芸術は、それをいわば逆手にとつて多様な表現を可能にしている。
- (2) コンピュータを生み出した数学者たちや脳科学の研究成果は、神秘的で特権的な宗教的曖昧さの矛盾と欺瞞を明らかにし、人間の思考の本性を、より因果的で物質的な科学法則の一部として再発見することに寄与した。
- (3) 人間の身体を制御し感覚を統合する脳の機能が脳科学の発達とともに解明され、思考を生む脳の活動と日常的な認知構造との共通性が明らかになるとともに、「曖昧」をめぐるさらなる問い合わせがそこに生まれることになった。
- (4) 「思考の自然化」によって人類の思考を形成する要素への認識は大きく変化し、精緻で合理的な思考形態が一般化したのだが、本質的に「地上的な」能力である芸術表現の文化的影響力がそこで全て失われた訳ではない。
- (5) 道具としての自然言語は、「厳密さ」という数学的形式を基準とすれば、論理的な一貫性や整合性を重視していないと言えるが、その表現世界の自由さは、数学的な「厳密さ」が内包する相対性を暴き出す批評性を持つ。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。なお、設問の都合上、本文を一部直した所がある。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

カノン——正典。ある文化領域において、最も価値のあるものとして特権化されたもの。

5 文中の空欄 A に入る文章として、本文の論旨

に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 大山鳴動し鼠一匹の厄
(2) 知を致すは物に格る理
(3) 灯台の直下は暗しの觀
(4) 毛を吹いて疵きずを求む害
(5) 木を見て森を見ざる弊

(高橋英夫氏の「原典探索」による)

6 文中の空欄 B C

にそれぞれ入る語の組み合わせとして、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| (5) | (4) | (3) | (2) | (1) | B | 侵蝕 | C | 顯現 |
| B | B | B | B | B | 遡行 | C | 排除 | |
| 拘泥 | 抵触 | C | C | C | 固執 | C | 結晶 | |
| | | C | C | C | 昇華 | | | |
| | | | C | C | 消失 | | | |

*(注)
マスプロダクション——大量生産。
手沢本——個人が書入れなどを大切にしている書物。故人の愛蔵書を指すことが多い。
複製技術時代——哲學者のヴァルター・ベンヤミンが主張した概念で、印刷、写真、映画等のメディアの登場によつて芸術作品に対する受容形態と意識が変化した一九世紀後半以降を主に指す。
文献学——歴史的な書物や原稿を客観的対象として分析し、その当時の社会や文化状況を考察する学問。原本やそれから分岐した伝本の形態と変容を研究するものもある。
テクストクリティーケ——文学作品等の本文を、その様々な版の本文と対照し、修正すること。
エディション——版。書物が刊行を重ねることに増加する。
本文校訂——テクストクリティーケとほぼ同義だが、この用語の方が、その実際の検証行為自体を指すというニュアンスが強い。
ヘルメーティツシユ——閉ざされた。近寄りがたい。

文中の〈始原性〉に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

(1) 始原性は人間が本能的に求めるものであり、その欲望は文献学の根底にも見出せる。

(2) 始原性は現在も学問的探究の対象だが、それを実際に発見、獲得することは困難だ。

(3) 文献学における始原性は、時に重厚で専門的な原典研究として、その相貌を現わす。

(4) 始原性が独創性に侵蝕されることで、そこに唯一無二の絶対的価値が生み出される。

(5) 始原性と唯一絶対性は、ともに原典という概念を複合的に構成する要素なのである。

本文の内容に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なもの を次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

(1) 原典、原本という観念は、大規模な複製技術が確立された現代ではもはや多重化した歴史的概念として相対化されており、そこでの「原」意識は特権的価値を喪失した。

(2) 「原」意識は、時代を超えて人間にとつて根源的なものであり続けており、そのイメージのあり方は、そこへの探索・探究の形態如何で変化するようなものではない。

(3) 近代日本文学のテクストクリティックにおいては全集として作家の原典が形成されるが、そこにのみ始原性が密封されてしまうことは、決して生産的なことではない。

(4) 通俗的文献学においては、人間が原典という領域を求めるものの根源的意味を無視して些末な本文校訂や分析に走り、文学者側も自らの創作行為を軽視しがちである。

(5) 「古典」という概念は「原典」と類似性を持つが、同時にそれは異なつたものであり、後者は歴史的な規範の中で、純粹な整合的形態で絶えず維持されてきたものだ。

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。なお、設問の都合上、本文を一部直した所がある。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(浜田寿美男氏の『「私」とは何か』による)

*(注) 系統発生——生物が、それまでの進化で経てきた変化の過程。個体発生と対置される概念。

ステテコ——主に男性がくつろいだ状態で着用する薄手の室内着。下半身用。

生活継り方——主に大正期以降の日本で進められた、生徒が自分の生活を感じたことをそのまま文

章で書かせることを目指した教育運動。

道浦母都子——一九六〇年代の学生運動の時代以降、歌人、評論家として活躍した。

全共闘——学生運動の興隆期のシンボル的存在となつた活動団体。

臨死体験——死に直面して生還した人が語る、生と死の境界領域で起こつたとされる出来事。

9

文中の空欄

A

て、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

(1) 感覚の世界からことばの世界への具体化

(2) ことばの世界と身体の生きる世界の二重化

(3) 身体の世界からのことばの世界の対象化

(4) ことばを超えた新たな感覚世界の顕在化

(5) 感覚を遮断したことば以前の世界の現実化

10

文中の空欄 B C

にそれぞれ入る語の組み合わせとして、

本文の論旨に照らして、最も適当なものを次の中から一つ選び、その番号を

解答用紙にマークせよ。

- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|----|-------|
| (5) B | (4) B | (3) B | (2) B | (1) B | 痕跡 | C 遠近法 |
| B 拡張 | B 前提 | C 主観性 | C 演繹法 | C 自明性 | 記憶 | 残骸 |
| C 限定性 | | | | | | |

本文中の「ことば」に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次のの中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 「ことばの宇宙」という比喩からうかがえるように、ことばはそれ自体が外界と相關的なミクロコスモスとして、自律的な表現世界を形成している。

- (2) ことばは、それを発する生身の身体の存在空間と深く関わっているが、同時に、その現実的な対応関係のみに束縛されない豊かな想像力の場でもある。

- (3) 特に文学作品の中では、ことばは読者の想像力に依拠した情景を独自に現出させるものであり、そこではその作者の現実への理解は絶対条件ではない。

- (4) ことばが、それを生み出す人間の身体から遮断された時、ことばの持つ豊かな可能性は消去されて、その観念のみが人間の存在を束縛することになる。

- (5) 人間が他者に何らかの観念を伝える際には、そのことばこそが受け手の現実的な体験となるのであって、それは時に人間の行動さえも左右するものだ。

本文の内容に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も適当なもの を次のの中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 文字の連なりでしかない言語表現が非現実的な虚構世界を生み出すことは、詩歌に顕著に見られる特性であり、読者はそこに自身の精神状況を投影し、身体に依拠しない抽象的な観念世界を創出する。

- (2) 小説を読む際には、現実の読者の身体の位置と、その読書行為での視点の移動をめぐる両義性が無自覚なまま発動することになるのであり、そこで読者は困惑と錯誤、そして快楽を体験することになる。

- (3) 時に「ことばの宇宙」と比喩化されるところの、ことばが生む物語世界は、日常的世界における現実世界と全く異質であって、それは日常的な人間の身体とその感性を超えた新たな表現世界を創出する。

- (4) 「死」ということばと、時間的な区分として意識化可能な「誕生」は対称的ではなく、それは前者の不可知性ゆえに全く異質であって、「死」はそこで観念として存在することさえできない空白となる。

- (5) 「死」は、生きている身体がそれを体験できないところの唯一の体験であって、自殺にもその不可知性が深く関わっているが、その背後には、ことばと人間の関係性をめぐる普遍的な構造が存在している。

次の和歌とその詞書を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

13

- 傍線部（ア）「なほ」が意味するものとして、最も適当なものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。
- (1) やはりお返事をいただきたい
 - (2) さらにお手紙をお出ししますよ
 - (3) 再びお返事をくださらないのですね
 - (4) まだお忙しいのですね
 - (5) そのままにしておけないので

* (注) 波越す——心変わりをする」とのたどえ。

駒——馬。

（『後拾遺和歌集』による）

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

空欄に入る言葉として、最も適当なものを次のの中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 風
(2) 秋
(3) 霧
(4) 波
(5) 春

傍線部（イ）「べし」と同じ意味の「べし」を含む一文を次のの中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) 僧師に告げて云はく、すみやかに海に入るべし、といふ。
(2) 成方いはく、身の暇をたまはりて、この笛を持ちて参るべし、といひければ、
(3) われ、むかしより食ふべきものも食はず、着るべきものを着ずして、
(4) 京にも、隠ろへて渡りたまふべき所もさすがになし。
(5) 花のにはひもげにけおされぬべくなど、聞こえしそかし。

A～Eの和歌について、それぞれの詞書をふまえて解釈したものとして、誤っているものを次のの中から一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- (1) A 東路の園原から来たという、兄弟のような親しい間柄であったとしても、逢坂の関は越さないだらうと思っています。男女の一線は越えないつもりです。

- (2) B 桜の花を散らすまいと思うあまりに、言の葉さえも惜しんでしまったことです。だからお返事をしなかつたのです。

- (3) C ただでさえ、岩の間から水はもれるものを、氷がとけてしまったならば、浮名も流れてしまうことでしょう。うちとけるつもりはありません。

- (4) D 娘が成長するのを待つて、と期待させたのに、その甲斐もなく、約束が守られないというのは本当でしょうか。そうだとしても私はいつまでも待つつもりです。

- (5) E 意地の張り合いに負けられないからといって、早々にあなたはお帰りになりましたね。私の愛の薄さがよくわかりました。

次にあげたア～カの和歌集を、成立の古いものから並べたものとして、正しいものを次のなかから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

- | | |
|---------|----------|
| ア 金葉和歌集 | イ 後拾遺和歌集 |
| エ 詞花和歌集 | オ 拾遺和歌集 |
| ウ 後撰和歌集 | カ 千載和歌集 |
- (5) (4) (3) (2) (1)
- オ→ウ→カ→エ→イ→ア
ウ→オ→イ→ア→エ→カ
ウ→カ→オ→イ→ア→エ

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(『世説新語』による)

* (注)

殷荊州——殷仲堪のこと。荊州刺史であった。

他事——どうでもよいこと。

18
19
20
21
22

23

傍線部（ア）「則二王之好離矣」とあるが、なぜそうなるのか。その原因を述べたものとして、本文の内容に則して適当なものには(1)を、不適当なものには(2)を、それぞれ解答用紙にマークせよ。

傍線部（イ）「道」と同じ意味で使用されている「道」を含む文を次のなから一つ選び、その番号を解答用紙にマークせよ。

18 殷仲堪と話していたことについて、王國宝が王緒に聞いたとした際に、本当のことを答えたとしても、王國宝は疑うことになるから。

(1) 天下有道則見、無道則隠。
(2) 道不同、不相為謀。

19 王緒は殷仲堪のことを王國宝に讒言していたにもかかわらず、殷仲堪と企んで人を追い落として、さらに親密に話していれば、王國宝の信頼を失うに十分だから。

(3) 誰能出不由戸。何莫由斯道也。
(4) 楽節礼樂、樂道人之善、樂多賢友益矣。

20 殷仲堪が人払いをして王緒と話すだけで、二人が密談していると王國宝に思わせるに十分だから。

(5) 朝聞道、夕死可矣。

21 王緒は殷仲堪を追い落とそうと企んで王國宝をしばしば訪れていたのに、殷仲堪と組んで別の人を追い払おうとすれば、王國宝に信頼できないと思われるに十分だから。

22 殷仲堪と王緒が密談を繰り返せば、自動的に、王緒が王國宝を訪れる回数が減るばかりか、その内容を隠そとすれば王國宝が疑心暗鬼になるから。